

ポスタータイトル:細胞株にとって有用性とは何か:未分化多形肉腫の細胞株を例にあげて

発表者氏名 小野拓也<sup>1</sup>

共著者氏名 野口玲<sup>1</sup>、吉松有紀<sup>1</sup>、申育實<sup>1</sup>、清茜<sup>1</sup>、土屋流人<sup>1</sup>、桑田優<sup>1</sup>、佐々木里菜<sup>1</sup>、  
吉田朗彦<sup>2</sup>、川井章<sup>3</sup>、近藤格<sup>1</sup>

発表者および共著者所属

1 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野

2 国立がん研究センター中央病院 病理診断科

3 国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

**【要旨】※文字:MS 明朝/サイズ 10.5/最大 400 文字**

我々の研究室では種々の組織型の肉腫から細胞株の樹立を行ってきた。細胞株は研究の目的ではなくツールである。我々は有用なツールを必要としている。そこで細胞株にとって有用性とは何かを考えた。細胞株にとっての有用性は、使用する研究の目的ごとに異なる。すなわち「何の研究に使えるかわかりやすい細胞株」および「自分の研究にマッチした細胞株」が有用である。例えば、我々は未分化多形肉腫(undifferentiated pleomorphic sarcoma; UPS)の細胞株を腫瘍組織から樹立した。

樹立した細胞株は遺伝子のコピー数異常を有していた。また、多様な細胞形態、増殖能、浸潤性、細胞塊形成、マウス体内での腫瘍形成能を示し、薬剤スクリーニングに使用することができる。我々の UPS 細胞株は上記の細胞特性に対応する臨床事象に興味のある研究者にとっては有用であろう。このように用途がわかりやすい細胞株が有用であると考えている。

発表者 URL :

[https://www.ncc.go.jp/jp/ri/division/rare\\_cancer\\_research/member/20181022103031.htm](https://www.ncc.go.jp/jp/ri/division/rare_cancer_research/member/20181022103031.htm)

1

発表者:写真添付[例]

